

インターンシップ

就職活動と

インターンシップ

就職氷河期と言われるほど就職することさえ困難になってきた今日、やっとの思いで入った企業をすぐに辞めていく人達がいる。その主な理由として、想像していたものと違ったから、ということをよく耳にする。若者の我慢が足りなくなっていることもさることながら、その業界の仕事内容に対する情報をよく知らずに手当たり次第に就職活動をしていることにも、この原因の一端があるのではないだろうか。企業のホームページなどを調べてみても、得られる情報はたかが知れている。では、どうすればよいのか。

百聞は一見に如かず

ここで紹介するインターンシップという制度を利用してみるのも一つの手だと思われる。インターンシップとは、企業などに短期間、実習・研修的に就業することである。百聞は一見に如かず。実際に自らの興味に関連した職場で仕事を体験してみないとわからないこともたくさんあるはずだ。また、実社会の人間関係を体験できることも、大学では経験できない貴重な経験だろう。

☆ 今回は、去年の夏インターンシップに参加した3人の12生、

小笠原美音さん（環境共生科学プログラム）

参加先：鷺羽グランドホテル

北岡未紗さん（人間科学プログラム）

参加先：梶川病院

吉田操さん（環境共生科学プログラム）

参加先：日本デリバリーサービス に、

・なぜ、インターンシップに参加したか。

・仕事内容は期待したものだったか。

・インターンシップを通して

その業界のイメージが変わったか。

・学生と社会人の違いを感じたか。

・インターンシップを通して何を学んだか

についてインタビュしてみた。

インターンシップに興味がある人は

ぜひ参考にしてほしい。

特集

小笠原美音さんの場合～鷺羽グランドホテル～

インターンシップの基本は

「なんでも積極的に取り組み
学び取ること」



業界の裏側をのぞけるチャンス

そもそも私は大学卒業後、大学院に行くことを考えていました。でも、自分の中ではいくらか迷いがあり、就職の道も考えてみようと思ったんです。そこで、早いうちに一度でも、社会経験を参考にしたと思い立ち、インターンシップに参加しました。

その企業を選んだ理由は、はずかしながら実は、給料が出るからだだったんです。いろいろなネットを検索してみたら、さすが夏休みということもあり、レジャー関係やホテルの仕事のよいなものがインターンシップとしてありまし

た。「これはサービス業に興味がある私にぴったりだ!」と思い、即決しました。家族旅行が夢だった私にとっては、そんな家族の思い出づくりのお手伝いのできたらいいなと思い、さらにそんなサービス業の裏側をのぞけるチャンスだったので。

インターンシップ先では、はじめから「アルバイトのようなものだ」と言われていました。事実バイトに高校生を雇っていましたし、他の企業でのインターンシップとは全く異なっていたと思います。その大きな違いは「肉体労働」という点でしょう。具体的にはブル監視員、帳場、ウェイトレス、食膳配達、コックさんの格好をして配膳などなど。インターンシップの基本は「自分で何でも積極的に取り組み、学び取ること」です。私の場合は、とにかく仕事がなくならないと、すぐに他の仕事を要求してしまっただけ、このような結果になったと思います。

約二週間、一日に何種類もこなしました。

「まさにこれこそ私が求めていたインターンシップでした」といってはいけないうえがするんですが、とにかく毎日毎日楽しくて仕方なかったです。ホテルに行く前は、約二週間も知らない土地で寮に入るなんて、心細くてできなかったと思っていました。でも、あまりの楽しさに私は、もつとここで働きたいと心から思っていました。それには、もちろん会社の方々が本当に優しくしてくださったからだだと思います。

常に最大限のサービスを

インターンシップを通してその業界についてイメージは基本的には変わらないうえです。この業界は、いろんなプロフェッショナルが揃って、その集団でお客様に適切なサービスを提供しています。しかし、実際その業界で働くという限りは、きつと気付く事がないという裏側で、常に最大限のサービスを提供できるという改善を繰り返しています。そんな前向きな姿勢を私は初めて目にして、どんな会社でも努力を怠っていないのだと、改めて感じました。



学生と社会人の違いという点では、会社の雰囲気は大学とは違い、和やかさの中に必ず緊張感がありました。仕事が始まった瞬間から、しつかり「はじめ」がありました。

私にとって、インターンシップはとてもよい経験になるものでした。そして思い出ができました。もしサービス業に興味のある人ならきっと病み付きになるような、とっても魅力的な経験ですよ。だから、ぜひホテルでのインターンシップをお勧めします。

興味を持ったら即チャレンジ

インターンシップを通じて、印象に残ったことは「明るく楽しくお仕事することの大切さ」そして「お客さまへ最高のサービスを提供しようとする会社の姿勢」です。この二つがあることで、何人のお客様が素敵な休日を通されただか、それを考えると皆さんとても幸せな気分になれると思いませんか?

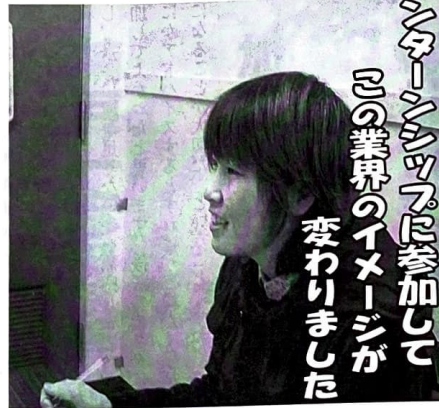
インターンシップに限らず、どんなことでも少しでも興味をもったら即チャレンジしましょう。今なら自分のプラスになるし、周りの人達が温かく見守ってくれますよ。

こんな素晴らしい時期を家でゴロゴロ過ごすのは、なんだかもったいないような気がしませんか?

北岡末紗さんの場合～梶川病院～

インターンシップに参加して

「業界のイメージが
変わりました」



「企業」としての病院

私はインターンシップの研修先に病院を選びました。なぜかという、今まで病院に対して企業というイメージをあまり持っていなかったもので、企業としての病院というものに興味をもったからです。

研修中は病院内のデイ・ケアやデイ・サービスといった施設の見学をしました。事務での仕事もありました。主に資料の整理などをしましたが、患者さんへの応対もちょっとだけしました。

短時間だったからだと思いますが、自分

与えられた「仕事」というようなことは無かったです。仕事の手伝いをさせていたのだというよりは職場の見学をさせていただいたというような感じでした。

インターンシップに参加してこの業界のイメージが大きく変わりましたね。病院とは病気がケガを治してもらう所というイメージしかなかったのですが、今回病院の経営や運営などの裏側を見たことによって、「病院」というところが自分で考えていたよりも普通の「企業」だと思ふようになりました。

積極的に参加を

今回参加してみて、今の自分が社会に通用するの不安になりました。毎日会社に通うための体力さえ怪しい、とも思いました。それと、敬語を使えないことを実感しました。職場に同じ年代の人もいたのですが、やはり社会人のほうが学生よりも自立していると感じましたね。インターンシップに参加してみたらいろいろと考えることができると思うので、ぜひ積極的に参加してみることをおすすめします。

研究室紹介

研究室の雰囲気に
触れてみてください！

吉村慎太郎研究室

環境共生科学プログラム

加藤徹研究室

地域科学プログラム

楠戸一彦研究室

人間科学プログラム

山田純研究室

言語文化科学プログラム

岩永誠研究室

情報行動科学プログラム

渡邊一雄研究室

創造科学プログラム

吉田操さんの場合～日本デリバリーサービス～

日給二千円のインターンシップ

私は、夏休みに何か自分を成長させることがしたいと思ってインターンシップに参加しました。(暇でとりあえずだからだっただけは避けたかった、というのが正直なところだったかもしれませんが。)この企業を選んだ理由は実は特に無くて、立地条件や、文系か理系か、などを基準に選んでいったらここになりました。仕事内容は主にホームページの制作でした。お店やイベントなどの宣伝のページを作ってネット検索できるようにする仕事です。



自分に何が足りないか
考えるきっかけになりました

インターンシップを通してこの業界の印象が変わったかといえば、実は全然変わらなかったですね。職場は私の「会社」というイメージにぴったりでした。インターンシップに参加する前は、実際入ったら全然イメージと違うだろうなあ、と予想していたので意外でした。

時間と言葉つかい

学生と社会人の違いについて思ったのが、時間に対する考え方です。社会人は時間よりも早く来るのが当たり前。授業に行く時、いつもギリギリか少し遅れていく私とは違うなあ、と感じました。それと、言葉使いもさすがに社会人の方はしっかりしていました。

インターンシップに参加して、社会人になるというのはどんな感じが体験することができたし、自分に何が足りないかを痛感しました。参加してよかったと思います。先輩の皆さんになにかアドバイスするとすれば、とにかく積極的になることが大切だ、ということですね。

(取材) 後藤周平 近藤由紀

取材を終えて

応用編

インターンシップ終了と同時に

インターンシップ体験後は業務や企業に対する知識が増え、これからの進路選択の幅が広がるだろう。また、大学で学んだことが社会に出て本場に役に立つのかを考えるきっかけともなる。総合科学部ではインターンシップ就業体験は卒業単位には含まれないが、インターンシップ受け入れ先の中には有給のものもある。わずか一〜二週間のインターンシップでは、実社会をほんの少し垣間見たにすぎないかもしれない。また、インターンシップの成果は、すぐ現れるわけではない。しかし、その体験を活かそうと意識してこれからの学生生活を送れば、必ずその成果は現れてくるのではないだろうか。社会人になるまでに何が必要か。自分に足りないのは何なのか。終了と同時に「応用編」が始まると考え、行動することが大事だろう。

研究室紹介

地域科学プログラム

パッケージ 「中国文学の世界」
 教養科目 「中国文学A」「中国文学B」
 「初級中国語Ⅰ」「初級中国語Ⅱ」
 総合科目 「中国伝統文化論」
 「現代中国文学研究B」



加藤徹研究室

研究内容

中国の演劇、特に「京劇」を研究しています。

なぜ中国を？

上野動物園にパンダが来たことや、孫悟空が面白かったこと、中華料理が美味しいこと…。

今は中国に留まっていますが、いずれはインドにも進出してみたいし、メキシコやアイルランドにも興味があります。

広島で一番美味しい中華料理店は我が家かな。家内とは、大学時代に一年間北京に留学した時に会いました。（奥さんは中国の方で、プロボースは中国語だったらしい。）先日、あるイベントで屋台を出したら、中華饅頭や麻婆豆腐が大繁盛でした。

授業をする時の心得

年間三十回の講義の中で二つ、三つ何か覚えていてくれたらな、と思います。だから、講義中にアコーディオンを持ち出したりね。大学時代につまらなと思った先生を、今でも覚えていたり、逆に、いいと思った授業でも、すっかり忘れてしまったり。講義が大学卒業後に役立つかどうかはあまり関係ないのではないのでしょうか。基本的に、皆さんが元気で生きていてくれればと、思っています。

音楽は好きですか？

ものが残らないパフォーマンスが好きなんです。学生が前にあるプリントをだーつと取りに来て、さっとなくなる。単位をもらったらさっとなくなる。この感じがたまらなく好きです。音楽や料理、砂絵など、もちろん京劇もそうです。京劇では、脚本もありますが、パフォーマンスが重要です。体の動き、音楽など残らないものが多く、セリフは少ない。「演劇の初心、忘れるべからず」の精神ですよ。まさに、中国文化の特徴「超原始的なものを高度化して洗練する」ということです。黄河文明以後、一度も滅んでいない文化ですからねえ。すごいんですよ。矛盾するようですが、宮大工や和歌を作る人など、将来に残すことを目的としていることも、また好きなんです。

（取材 高橋 佳子）



研究室紹介

環境共生科学プログラム

パッケージ 「中東イスラムの世界」
 教養科目 「英語」「ベルシャ語」
 専門科目 「宗教政治社会論」



吉村慎太郎研究室

研究内容

中東・イスラム世界、特にイスラムの近現代史が専門です。中でも、一九二〇～三〇年代のパフラヴィー王朝初代国王レザー・シャー期のイラン内政と国際関係について研究しています。

きっかけ

学部時代の関心は十二世紀頃のインドの神秘主義にあり、その特別研究の資料蒐集と祭り（ウルス）観察のために、一九七八年に数ヶ月間インド、パキスタン、アフガニスタンを旅行しました。その時、丁度カブールで政変（四月クーデター）に遭遇したのがきっかけで、現代政治や国際関係に関心を強く持つようになりました。ただ、その後七九年十二月にソ連軍がアフガニスタンに侵略するなど、到底同国の政治社会を研究する状況になかったため、同じ時期に革命を経験して、ドラスティック

学生時代

学生としては「真面目」なほう（う）でしたが、授業への出席は関心のあるものを除いて、決して良くなかったと思います。また必修の授業などでは、授業内容に関係のない本を隠れて読んでいましたから。そのため、何度か「恥」をかきました。が、時に全く無関係と思われた授業と偶然授業中に読んでいた本の内容が変に符合したり、随分教えられることもありました。

趣味

特にありませんが、休日に料理をしたりするのが好きですね。どういうジャンルというのはなく、在り合わせの材料で工夫した「へんてこりん」料理でしょうか。ともかく、論文でもそうですが、材料（資料）が

ないなりに工夫することが第一で、大学をやめたら、将来「コック」への道に進むことを考えています。ただ、その場合道楽と違って、相当な基礎訓練と創意工夫が必要かと思っています。

学生へ一言

私の授業は「おもしろい」と思っています。これはまず聞かなくてはおもしろく聞けない分野でもあるでしょうし、私の話術と工夫のなさとも関係があると思います。でも授業は料理と違って「それほどエンターテインする必要はない」。少なくとも大学です。おもしろく聞く（考える）ため、毎日のニュースを通して、現実の社会のあり様を実感することが第一だと思います。その手順を踏まないで、体系的な学問に首を突っ込んで、何が何やら分からない、結局「虚学」になってしまいう。単位にはなっても、自分の身にならないのではと思います。

（取材 後藤 周平）

研究室紹介

言語文化科学プログラム

教養科目 「リーディングⅠ」「リスニングⅠ」
「スピーキングⅠ」「ライティングⅠ」
「ライティングⅡ」
専門科目 「英語読解法演習Ⅳ」
「心理言語学」



山田純研究室

研究内容

心理言語学です。心理言語学は言葉の学習と運用のメカニズムを科学的に究明し、豊かな言語生活に寄与するための学問です。研究テーマとしては、心の辞書、心の文法、読み書きの情報処理、脳と記憶、言語学習の原理、イメージ情報、痴呆症と言語情報処理、などがあります。

きっかけ

私はもともと教育学部にいたんです。英語を専門にしていました。そこで、言語を教えるにあたって、今の教育に欠けているものを感じたんです。今の中高生の話し方をみても、理論的とは思えない。根本的な言語のメカニズムを教えていないんです。そこで、心理言語学という学問が、その言語教育の大きな穴を埋めてくれる方法の一つではないかと思ったのが、この研究をやるうと思ったきっかけです。他にも、心理

研究室の雰囲気

研究生一人、院生が一人、四年生が一人います。
みんな思い思いの研究を個人でやっていて、私はそのサポートといった感じですね。

学生時代

大学の二年のとき、英語の小説を原文で二十冊ぐらい読んだと思います。はじめは、辞書を頻りに引いていましたが、めんどろになって、話がわからなくても読み進みました。二年が終わる頃には、一時間で二十ページ近く読むようになり、英語が読めるという感触を得ました。三年では意味論や日英語対照研究の文献を読むようになりました。

D.D. Steinbergの Semantics という高価な本を買って部分的に読みましたが、三年後、広島大学大学院でその著者指導を受けるとは、夢想だけに

しませんでした。大学卒業後の進路は神戸市の高校の英語教師が内定していましたが、もっと勉強したいと思い、大学院を受験しました。今は、自分の好きな研究がここ、総合科学部でできて、本当によかったと思っています。

学生へ一言

学生さんの学習意欲が年々低下しているんじゃないかな。就職にしても厳しい厳しい、と言いつつながら直前になるまでなんにもやらない。もっといろんなことに積極的になつてほしいですね。

(取材 大宅 まり子)

研究室紹介

人間科学プログラム

パッケージ 「人間とスポーツ」
教養科目 「スポーツ科学」「スポーツ実習C」
専門科目 「身体文化史」
「健康スポーツ科学外書講読A」
「健康スポーツ科学演習B」



楠戸一彦研究室

きっかけ

現在は歴史学の視点からスポーツを研究していますが、元々は教育大学の体育学部で柔道をやっていました。高校の体育教師になろうと思っていました。歴史は好きでしたが、実際にこの道に進み始めたのは大学二年生からです。私の通っていた大学では二年時から研究室に所属せねばなりません。もちろん実技面からスポーツを勉強するところもありましたが、私は歴史的にアプローチできる方を選びました。一年のころ、体育史研究室の先生の授業で怒られたことがあったんです。出席を採った際に、私が気の抜けた返事をしたと言っただけ。そんな些細なきっかけから先生のもとに出入りするうちに、体育史についてのいろいろな話が聞けたことが大きかったです。

研究内容

ドイツ十五世紀ころのスポーツに

ついて研究しています。そのころから戦争に備兵を使うことが盛んになり、専ら実戦のために習得されていた武芸が競技化の道を辿ったんです。剣術などの腕前を競い合う大会が開かれる他、もっと遊戯的なものでは九柱戯というボーリングの元となった競技も行われていたんです。ヨーロッパ中世は「暗黒時代」と呼ばれますが、この研究をしていると人々はその時代なりに楽しみを持って生きていたことがよく分かります。人間のたくましさ・力強さを感じます。現代日本とは一見無関係な時代や出来事を研究しているわけですが、じゃあ何も還元できないのかといえはそうではありません。例えば現在地域ぐるみでスポーツを活性化させようと、スポーツクラブ発足の促進が叫ばれていますが、中世のドイツにはギルドなどと同じ感覚で、その原型ともいえる団体が存在していました。どんな研究も深めていけば、現代にも通ずるものが見えてきますよ。

これからの研究テーマとしては、都市貴族が領主の生活を真似て始めた馬上槍試合について掘り下げてい

きたいと考えています。また中世のスポーツイベントでは実質的な判定を下す競技委員の他に、道化師がイベントの進行を取り仕切るというところが行われていたんです。そういった道化師の果たした役割についても研究を進めたいと考えています。

学生へ一言

幅広く本を読んで下さい。年をとると好き嫌いが固まってきますし、気力も無くなってきたり好き嫌いなジャンルのものしか読めなくなりまから。あとは自分の可能性をもっと信じるべきだと思います。「自分はこんな人間だから」という言い方をすることがありますが、はつきり言っていない人は、自分で自分を限定してしまうのは、もったいないです。研究したい人はいつでも相談に来て下さい。私の研究分野とはやりたことが違っているけど、より希望に添った先生を紹介するなど、お手伝いできると思います。

(取材 行田 万里子)

研究室紹介

創造科学プログラム

教養科目 「生物学」「種生物学」
「細胞科学」「生物学実験」
専門科目 「創造科学概論」
「細胞生物学」「形態形成論」
「生命科学実験B」



渡邊 一雄 研究室

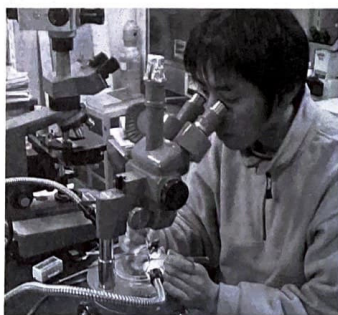
研究内容

大学院時代は受胎卵からどうやって体ができるか、つまり発生学を学びました。個体発生や分化の問題は基礎医学の問題と等しく、その後就職した研究所ではウイルス学、発ガンに関する研究をしました。'82年に広島大学に来てからは、生物の体はどうやってできるか、そのような仕組みはどうやって進化してきたのかを骨格を材料に研究してきました。しかし、やがて骨格の形態形成の仕組みと進化の研究は世界のメインプロジェクトの一つとなり、科学的興味と医学への応用とを両立させながらの研究に困難を感じ、現在は「発生」の仕組みはどのように進化してきたか」という、より普遍的なテーマを、蝶と蛾を用いて分子のレベルで研究しています。

発生学に興味を持ったきっかけはもともと生物好きということ、20才の時とても素晴らしい先生に出会ったことです。人には必ずモデルと

なる人生の先輩がいます。私はその先生から学問とは何か、人間とは何か、社会とは何かを教わりました。理系に進むのならカントの『純粋理性批判』を読みなさいと言われたこともその一つです。責任を持って学問すること、つまり研究分野の知識だけに偏ってはいけなさと教わりました。人生を変えた人と出会えたこと、私淑に値する先生と出会えたことが幸せです。

自分の趣味というのはもはや自分の生き方になっていきます。高校生の時、将来の自分の為に日本史をそれこそ寝る間を惜しんで勉強しました。日本史を選んだ理由は旅行をする時、その土地の風土や人々の歴史を知っていると楽しいだろうと思っただけです。自宅にある本の8割は日本史や日本文学などの本です。そのほかには野球、美術、音楽、演劇も好きです。何事も中途半端ではなくところんやる方なので、自分で何が趣味で何がプロなのか解りません。言うなら自分の文化です。



アゲハ蝶の幼虫を解剖しているところ

(取材 渡辺 理紗)

学生へ一言

今の若い人には知性の厚みがない、「人」を知らないと思います。人間として本当の力になる「知識」つまり知性の基礎が欠如しているからです。「知識」よりも「問い」を解くことに重点が置かれ、たくさん「知識」を持つことが重視、ときには軽蔑されてきたのではないでしようか。知識がないと物事の本当に触れることも出来ないし、論じること出来ません。学生には知性ある人間の先生と出会い、勉強に励んで欲しいです。

研究室紹介

情報行動科学プログラム

パッケージ 「心と適応」
教養科目 「心理学A」「心理学B」「適応心理学」
総合科目 「こころの諸相」
専門科目 「行動科学外書購読I」
「心理学基礎実験」「行動制御論」



岩永誠研究室

研究内容

不安やストレスがどのようなメカニズムによって生じているのかとか、どういう人がそれらを感じやすいのかということ調べています。また、音楽を使ったりなどして不安やストレスをコントロールしようというのが、一番の研究内容です。

きっかけ

本当に興味を持って真剣にやり始めたのは大学3、4年からです。それまでは心理学という学問は知らなかったんです。最初はコンピュータで人工知能を研究したくて、そのために心理学をやっておく必要があったんですが、やり始めたら心理学の方が面白くなっちゃっただけなんです。

学生時代

趣味ばかりでした。音楽が好きなので音楽をたくさん聴いたり、小説ばかり読んでました。アルバート・シュタインはほとんどレコードにいました。後はたまに日曜に映画に行くくらい。あまりアクティブにどうこうするということはなかったですね。

趣味

やっぱり音楽（クラシック）を聴くことですね。なかなか聴けなくなりましたけど。

学生へ一言

もつと本を読んで積極的に何でもやってください。試そうとする前に一歩引いてしまう学生が非常に多いんですけど、先生のところへ行って話をすると、世界が広がるし、自分の知らない知識も身につきます。これからの時代はスペシャリストを統括できるスーパージェネラリストが必要です。それができるのは幅広い



(取材 朝田 のぶみ)

分野にネットワークを持つことができる総合科学部の学生なのです。あとは人を説得できる文章を書くために日本語の勉強をしましょう。そのためにたくさん本を読んでください。



施設紹介

Q. ノートテイクについて詳しく教えてください。

一人の聴覚障害学生に、一回の講義で三人の学生がノートテイクにつくのが理想です。しかし人数が足りていないため、二人の学生で行っているのが現状です。一人がメイン、一人がサブになり、メインとサブを交代しながら音声情報を文字情報に変えていきます。

Q. 今後の目標やこれから取り組んでいきたいことを教えてください。

近々、ボランティア活動室のホームページを立ち上げる予定です。ホームページには、ボランティア活動室の紹介と、大学が行ってきた就学支援の概要や支援機器の紹介などを載せる予定です。

その他にも、キャンパス内のエレベーターや障害者用トイレ、点字ブロックなどの位置の情報や手話のページなどを更新しながら、徐々に内容を充実させて行きたいと思っています。

また、障害学生に向けたキャンパスガイドも作って行きたいですね。

Q. 大学や学生に望んでいることはありますか？

障害に対する周囲の理解が進むといいな。なにも「ボランティアをする！」って肩に力を入れなくても、ちょっと気にかけていただくだけで随分違うんです。

Q. コーディネーターの近藤さんに伺います。コーディネーターの仕事とはどのようなものなのでしょう？

コーディネーターというのは相談役ですね。教官とボランティア学生を繋げる役目をしています。

Q. どうしてコーディネーターになられたのですか？

以前、総科では事務補佐員としてお世話になっていたんですが、この部屋が出来た時にお話を頂き、気が付けば「ボランティア活動室の近藤さん」になっていたんです。

Q. 気をつけていることは何ですか？

特にないですね！

Q. これからの目標は？

目下一番の課題は手話の勉強です。聴覚障害の学生さんと迅速で積極的なコミュニケーションをとることができますからね。



(取材 近藤 由紀)

学生さんに聞きました！

あなたにとって、ボランティア活動室とは？

「喫茶店みたいなところです。」

「うまく言えないんですけど、いい雰囲気なんです。」

ボランティア活動室へようこそ

総科の事務棟の二階に、ボランティア活動室という部屋がある

…というのを知っていましたか!?

ボランティア活動室、知る人ぞ知るこの部屋。

一口に「ボランティア」と言っても実に様々なことをやっているのです。

ボランティア活動室教官の山本幹雄先生、コーディネーターの近藤邦子さんにお話を伺いました。

Q. ボランティア活動室はどのような人に利用されているのですか？

障害学生、教官、支援学生といった、障害学生就学支援に関わっている人達が利用しています。また、障害学生就学支援ボランティア実習という講義の実習生用としても利用されています。

Q. ボランティア活動室ではどのような活動を行っているのですか？

ボランティア活動室では、障害学生就学支援のコーディネートを行っています。活動室には、いろいろな支援機器があります。ボランティア実習を受講している学生たちは、毎週決まった時間に活動室を訪れます。障害学生、実習生、支援学生は就学支援の技術を学びながら作業を行っています。活動室は訪れる人たちの交流の場としても活かされています。

Q. 具体的にどのようなことをしているのですか？

今、広島大学には、視覚障害、聴覚障害、運動機能障害と、いろいろな障害のある学生が通っています。いろいろなニーズに応えるため、実習では、点訳作業、ノートテイク、ビデオ字幕作成や手話といった支援技術の育成を行っています。

現在は聴覚障害学生の支援に積極的に取り組んでいます。

Q. 聴覚障害学生の支援と言うと具体的にどのようなことをしているのですか？

大きくわけて2つあります。一つはノートテイクの養成です。ノートテイクとは聴覚障害を持った学生さんと同じ講義を受けて、講義中に先生が言ったことをノートに書き留める人のことです。もう一つは聴覚障害を持った学生さんが受講した講義で使われるビデオに字幕をつける作業をしています。聴覚障害者にとってビデオは字幕付きの方がいいのですが、ビデオに字幕をつける作業は大変で、十分間のビデオに字幕を付けるのに、慣れた人でも3〜5時間くらいかかってしまいます。ですから、多くの学生がこの作業の仕方を覚えてもらっています。

ピアサポートルーム

— 学生による学生のための相談室 —

困っていること、悩んでいることがあるのだけど、
どこへ相談に行けばいいのかわからない…というあなた！

そういう時は、まずピア・サポート・ルームへ行ってみましょう。
ピア・サポート・ルームとは、学生ボランティアであるピア・サポーターが、
困っていたり悩んでいた学生に対して、どこに相談に行けば一番よい
のかを教えてくれるところです。

ピア・サポート・ルームとは…

♪学内外の相談窓口の情報の交通整理
広大には学生のための相談窓口がいくつか
ありますが、残念ながら、いざ困ったことが
起きたときに一体どこに相談に行けばよいか
わからない…という人が多いのではないでし
ょうか。(実は私もそうでした。)

「同じキャンパスの仲間(ピア)の手助
け(サポーター)をする」場であるピア・サ
ポート・ルーム(以下PSR)では、学生ボ
ランティアであるピア・サポーターが相談に
来た学生に対して学内外の相談窓口に関する
情報を提供しています。いわば、問題を解決
するための適切な相談窓口についての情報の
交通整理役をしているといえます。

♪PSRが設置されるまで—その背景は—
PSRのような、公的に設置された学生に
よる学生相談活動組織は、実は国立大学の中
では広大が全国で初めての取り組みでした。
もともとカナダやアメリカなどで盛んなこの
活動は、原田前広大校長の強い要望によって

推進されてきました。

PSRの前身としては、平成九年度から始
まった、学生ボランティアによる学生のため
の電話相談「キャンパス・ウォームライン」
が挙げられます。そして、平成十二年度から、
PSRがオープンしました。

♪なぜ、学生ボランティアがピア・サポ
ーターなのか

ピア・サポーターは、毎年後期に行われる
ピア・サポーター養成講座を受けて認定され
た、現役の広大生で構成されています。学生
であるピア・サポーターが学生相談活動をし
ている理由としては、東広島キャンパスとい
う、周囲に相談できるような施設や人が少な
い環境下では学生同士の助け合いが重要であ
るということ、また、学生同士だからこそ、
先輩が先輩に聞くような感じで比較的相談に
来やすい面もあるということが挙げられま
す。

今回は、PSRの専門アドバイザーの方と
現役のピア・サポーターさんにお話を伺い
ました。

* * * * *

ピアサポーターに聞きました

現在ピア・サポーター(以下PS)は
何人いるんですか？
二六人です。教育系の人が多いです。

PS同士で集まることはあるんですか？
月に一度全体会議があります。そこで意
見を交換したりPS同士で相談しあったり
します。飲み会とかもありますよ。

PSにはどうすればなれるんですか？
PSになるための養成セミナーを後期に
十回受けて、春の直前セミナーを受ければ
なれます。単位はありませんが心理の勉強
にはなると思います。直前セミナーではロ
ールプレイをしたり相談技術を学んだりし
ます。試験はありません。

なぜPSになろうと思ったんですか？
私の場合はPS養成の講義がおもしろそ
うだったので、受けてみようと思いました。
自分のためになると思います。他の人
では臨床をやりたい人とか、教職に就きた
い人もいます。

いつも何に気をつけていますか？

まず講義で習ったことには気をつけていま
す。相手の話を聞くようにするとか。友人の
相談とは違うので、具体的なアドバイスより
相談先などの提案にとどめています。

また、守秘義務があるので、室外では絶対
に相談内容を口にしないように気をつけてい
ます。深刻な相談があったときには専門のア
ドバイザーやPSの中で話し合います。外部
の人には話せないのです。

PSになって良かったと思うときは？
役に立てたと思ったときです。

PSになりたいと思っている人に一言。
他の人にできることはわずかですが、人
のためにしようとすることは自分のために
もなります。

— 新入生をはじめ学生のみなさんに一言。
同じ学生同士なので、気軽に相談にきて
下さい。

— ありがとうございます。

☆ピア・サポーター養成セミナー基礎編の授業科目

- ・ピア・サポート・ルームとは
- ・セルフ・ヘルプ・グループとピア・サポーター
- ・学生とこころの健康
- ・学生と破壊的カルト
- ・学生と就職問題
- ・身体障害学生の支援
- ・犯罪防止と被害者支援
- ・広大の入学、編入学、転学部・転学科制度等について
- ・学生と消費生活
- ・外国人留学生の支援





施設紹介

専門アドバイザーに聞きました

「広大の他にピア・サポート・ルームを設
置している大学はあるんですか？」

国立ではありません。私立では慶應大学
に30年ぐらい前からあるようですが、正式
機関ではなくサークルのようなものによ
うです。相談内容も授業内容の案内などに限
られていて、広大のようにどんな内容でも
受け付けるというようなものではありません。
つまり国内の大学でピア・サポート・
ルームを設置しているのは広大だけとい
うことです。

「国内では、というと海外ならあるんです
ね？」

はい。広大はカナダの大学にこのような
制度があるのを知って、積極的に学んで取
り入れたんです。もともと、国内でも大学
ではなく中学校、高等学校にはたくさんあ
るみたいです。小学校に
もです。

「なぜ他大学にはない
んですか？」

問い合わせはたくさん

あるんです。ただ、学生が相談を受けるわ
けですから、その養成が大変なんです。守
秘義務を徹底させなくてはならないし、
深刻な相談を受けると聞いた方も感情移入
してしまうことがあるので専門のアドバ
イザーがフォローしなくてはいいけないん
です。それらの色々な問題で挫折してしま
うようです。

「そこまで大変なのに学生が相談を受ける
理由は何ですか？」

学生同士だと大人には相談しにくいこと
も気軽に話せると思うんです。チューター
や教官に相談するのは敷居が高いと感じる
些細なことでも学生が相手だとお兄さん、
お姉さんに話すように気安く話せるんじや
ないでしょうか。学生同士だから言えるこ
ととかあるでしょう。実際、「この教室
にはどうやって行けばいいんですか？」と
かいいう相談もたくさんありますし、「落
し物を拾ったけどどうしたらいいの？」な
んてこともありました。そんなことでも全
然いいんです。

ピア・サポート・ルームをつくったの
は、どこに相談すればいいのかもわからな
い、という人のためです。とにかくそんな



人を支える点の一つでも多ければいいと思
ったのです。そして相談者が少しでも行き
やすいと感じる場所にするために学生が相
談をうける方法をとりました。

「では最後にPSを指す人、学生のみな
さんに一言お願いします。」

本当に些細なことでもいいので、とにか
く来て下さい。

「ありがとうございました。」